こどもの城ニュース

KODOMO NO SIRO NEWS

2001・8・15 NO.119

発行／〔こどもの城〕広報部☎03-3797-5674
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-1

HATURATU はつらつ

“イエィ～！”ぼくらの格好いいダンスを見ていってよ。アメリカのニューヨークに住むぼくらの夢は、プロのダンサーとしてブロードウェイの舞台に立つことなんだ。

週末や学校が休みのときには、繁華街の街角でラジカセのテープに合わせて踊りまくります。通行人の中には立ち止まってしんけんに見入る人、コインや1ドル札をくれる人もいて、こづかいかせぎにもなるよ。でもやっぱり、無心に踊っているときが一番楽しいよね。

（写真・文　平早　勉）

〔こどもの城〕の“遊びのボランティア”（女性ボランティア編）

“経験”を生かし、子ども（家族）の遊びをサポート

今年は「ボランティア国際年」。〔こどもの城〕には、子ども（家族）の遊びをサポートする、たくさんの“遊びのボランティア”がいます。大学生から70歳代の女性まで、年齢や経歴もいろいろ。スタッフといっしょに〔こどもの城〕を楽しんでもらおうと活動しています。今月は、女性ボランティアのみなさんに話をうかがいました。

ボランティアを始めた動機はいろいろ

女性ボランティアは、毎年秋に行われる講習会（5回の講義）を修了して、登録した人たち。参加の理由は、“子どもとかかわることをしてみたい”“ばくぜんとボランティア活動をしてみたい”“知り合いにさそわれて”などさまざまです。

「子どもが小さいときに、家族で遊びに来た楽しい思い出があって。子どもが大きくなったら、研修にでてボランティアしてみたいな」と思ったという森さん。「週3日のパートをしながらできるお手伝いをと、イベントの準備などをしています。私にはこれが合っているかなと思って」と話します。

ボランティア・オフィスでカラーてぶくろを使った人形を作る「手作りおもちゃ」グループのみなさん。

〔こどもの城〕の近所に住む長壁さんは、開館当時によく利用していたそうです。長壁さんの子どもが通っていた小学校は、最近統廃合で廃校に。「この地域に学校がなくなって、寂しい気持ちになっていました。〔こどもの城〕に行くと地域の子どもだけでなく、全国から子どもたちが来るので、いろいろな交流ができるんじゃないか、と思って」とボランティア活動を始めました。

丹羽さんは「夏の水遊びがすごく好きだったんですね。あるきっかけで、ボランティアを募集していることを知って。いろいろなスタッフがいらして、楽しみながら来ています」。母親として〔こどもの城〕と出合い、子育てがひとくぎりしたあとで、今度はボランティアとして遊びに来る子どもたちの遊びをサポートしています。

プレイホールや音楽ロビーなどで定期的に活動する女性ボランティア

〔こどもの城〕のボランティアは、大きく2つのグループがあります。大学生・社会人の「青年ボランティア」と、おおむね30歳以上の「女性ボランティア」です。青年ボランティアは土・日曜日や学校休みの期間、女性ボランティアは平日を中心に活動しています。

女性ボランティアが参加して定期的に行われているプログラムの主なものは、下記のとおりです。

- □おはなし紙しばいのつどい（火曜日・プレイホール）
- □みんなのにこにこ広場（水曜日・プレイホール）
- □おりがみあそび広場（木曜日・プレイホール）
- □楽器屋わんちゃん（木曜日・音楽ロビー）
- □みかんちゃんズのオバオバサンバ（金曜日・音楽ロビー）

※「絵本のよみかたり」やプレイホールや保育室にある「手作りおもちゃ」の制作・補修、「保育」活動への参加なども行っています。

女性ボランティアが中心となって行われている「おはなし紙しばいのつどい」。毎週火曜日の午後、プレイホールで行われています。小さい子がたくさん集まる人気プログラムです。

人と人とのつながりを大切に

ボランティア活動をとおして、たくさんの子どもや親子と出会います。折り紙グループの中野さんは「以前は、子ども対ボランティアという関係だったんですね。“お母さんもいっしょに”と声をかけるようになったこともあって、お母さんが補助しながらっていうのが多くなったんです。お母さんが覚えていって、家でやってほしいなっていうのを、すごく意識しながら、前とは違ったやりがいがあるんですね」。

子育て経験者として、お母さんの気持ちも分かるし、と複雑な表情をするのは中野さん「お母さんたちに“子どもをみて。私たち（だけ）で話したい”っていうのがあって、終わったとにき、ものすごいお礼をいわれるんですよ。（お母さんは）いつも子育てなので、ちょっと手放したい気持ちも分かるし」。

「プレイホールのすべり台のところで、“すべっていいの？”って目をしていたから、“いいよ”っていったら、お母様が“洋服汚れるからダメだ”って。“そういうかっこして、来るな”とも言えないし……」という経験をしたのは森さん。「お父さんが“先生の言うとおりに”とか言って、お子さん泣いちゃうんですよ。“楽しんで帰ればいいから、お遊びだから”って言って。若いお父さんだったんだけど、一生懸命だったんですよ。次に来たときは、横にいて、口を出さずにいたので“ああ、よかった”と」と話すのは中野さん。女性ボランティアの“人生経験”が生かされます。

「私どもの子育てのときは、とにかく隣近所がお互いに助け合って。おかげさまで子どもも成長したとつくづく思っていました。それで、自分がひまになったときには、お互いに助け合う仕事、ボランティアをしたいな、と思っていました」と、塩村さんが話すように、人と人とのつながりを大切にする気持ちが、女性ボランティアを支えています。

“子ども”とかかわるボランティアがしたい

「女性ボランティア講習会」は、毎年10月ごろ開かれます。5回の講義を修了後、登録してから活動はじめます。

〔こどもの城〕以外のところでボランティアを経験してきた人もいます。「別のボランティアを長くやっていました。〔こどもの城〕のボランティアを体験して、ボランティアにもいろいろあるんだな、と実感しました。始めて1年たらずなので、試行錯誤の段階です。楽しいのがなによりで、仲間の人たちもいいので。影絵をやっているんですが、その制作・上演が今、やっと楽しくなってきたかな、って感じです」と話すのは石野さん。

「幼稚園に勤めていて、子どもにかかわっていたので、そういう関係のボランティアを探していたんです。ホームヘルパーの勉強もしていたんですが、ちょっと違うなっていう感じで。子どもの学校のPTAをやっていて活動を休むことが多かったんですが、4月から高校生になって、毎週これるようになりました」と話すのは鈴木さん。

小林さんは「子どもの保育をしていましたが、引っ越しで子どもとのかかわりがなくなったときに、ボランティアの募集を知って受講したんです。でも、大阪のほうに転勤になって、またこちらに戻ってきて1年ちょっとになります。地元で学童とのかかわりを持っているんですが、〔こどもの城〕のほうもイベントだけのお手伝いをしています」。

影絵を上演している女性ボランティア。舞台裏は大忙し。

「定年になったんだから、おまえの好きなことやったらいいよ」とご主人に言われ、ボランティアを始めた塩村さん。さっそく、区のボランティアに登録。「お年寄りの介護とか、話し相手とかが多いんですね。それらをしながら、やっぱり子どもさんとのかかわりのボランティアはないものかな、と思っていました」。新聞で募集しているのを知って、さっそく講習会に参加。「若いときは、お子さんと直接かかわるイベントとかしましたけど、年とともに無理かなって自分なりに考えまして、今では布のおもちゃ作りに参加して、最近体調がいいものですから、イベントにもだしていただいています」。

子どもたちからエネルギーをもらっています

「ボランティアについては、自分もいろいろ考えながら、みんなに教わりながら、そして子どもたちにエネルギーをもらいながら――というところです」と石堂さんが言うように、ボランティア活動のなかからなにかを見つけて、遊びにくる子ども（家族）も自分も成長していこうという気持ちで活動しています。

活動歴10年の中野さんは、ボランティアを始めたときは2人の大学生のお母さん。今は孫がいます。「孫ができて、子どもの見方が違ってきて。子どもも（10年前と）また違ってきてますしね。孫をみるような気持ちで接しています。10年前とは違った楽しみ方になりました」。

お話をうかがった、女性ボランティア。前列左から、荻原、長壁、森、小林、塩村、中野、後列左から丹羽、石堂、石野、鈴木のみなさん（敬称略）。

「子どもって嫌いだったんです（笑い）」という荻原さん。自分が子どもを持ってから、かわいいなと思うようになったそうです。今は孫もいて「自分が楽しまないと子どもたちが寄ってこない――というのが分かったんで、孫が（遊びに）来るときも自分が率先して楽しまないと、孫も楽しめないということを〔こどもの城〕で教わりました。ちょっとした経験が、いろんなものに広がっていくなぁと思います」。

孫の世代とのふれあいに、自分のしてきた子育てと違う面を見つけて、ボランティア活動を楽しんでいる人もいます。

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE FUJITSU

ブロードバンド対応で、
ひとつ先のインターネットへ。

FMV DESKPOWER
www.fmworld.net

FMV BIBLO
www.fmworld.net

画面はハメコミ合成です。

FAX 本広告の製品カタログをFAXにてお送りしています。千葉：043-299-3642 大阪：06-6949-3270（資料番号/1141～1143、1151～1153）

夏休み一日ワークショップ参加者募集中

夏休み特別期間中に行われる、造形、映像・科学、手作り楽器などの「一日ワークショップ」の参加者を募集しています。まだ、定員に余裕のあるコースもあります。1階講座受付【☎03−3797−5666】でお確かめの上、お申し込みください。制作する作品の見本が講座受付の横に展示してあります。

夏休み造形教室「ホワイトタウン」（8月25〜29日）

手作り映像おもちゃ 映画のしくみを体験！「ヘリオシネグラフ」（8月20〜23日）

▲リニューアルした「屋上ちびっこプール」。プールサイドが広くなり、使いやすくなりました。東京タワーや新宿副都心の高層ビル群もみわたせます。

▲「おにごっこはスポーツの原点だ！〜新・おにごっこの楽しみ方」（体育室）。スタッフにしがみついている子どもたちを、輪の外にひっぱりだす遊び。ひっぱりだされたら“アウト”。

〔こどもの城〕は　夏、まっさかり

子どもたちは元気いっぱい！

夏休みには、たくさんの子どもたちが〔こどもの城〕に遊びに来ます。元気な遊び、不思議な遊び、静かな遊び、考える遊び——いろいろな遊びがいっぱい。子どもも大人もいっしょになって、〈あそび〉の城を探検！ おもいっきり〈あそび〉を楽しんでください。

▶パソコンルームでは「どんなのいるかな〜探検マップ〜」。お父さんと相談しながら、探検マップを作りました。八月六日からは「こんなのいたかな〜復元コンピュータ」です。

◀「親子あそびの企画展〜大きさくらべ〜」（ギャラリー）。テニスボールを使った身長計。ぼくの身長は、ボール何個分？”

◀夏休みの造形スタジオプログラムは「オープンスタジオ〜すみかと造形」。すみか”とは「住むところ”すまい」。人間は家、生き物は巣のことです。八月十九日までのプログラムは「ベーバーゲート」（親子）、「ナンノス」（小二以上）。二十日からは「ミラルーム」（親子）、「のびーるハウス」（小二以上）です。

夏休み期間中毎日遊べる“夏休みフリーパス”発売中

7月20日〜8月31日が〔こどもの城〕の夏休み特別期間（月曜日も開館）。友だちや家族といっしょに楽しむ“遊びのプログラム”をたくさん用意しています（開館時間は、午前10時〜午後5時30分）。より多くの人に〔こどもの城〕を利用してもらおうと、期間中毎日利用できる“夏休みフリーパス”をアトリウム受付で販売しています。

子ども用（3〜17歳）「ドキドキパス」が1,500円、大人用「わくわくパス」が1,800円。お気に入りの遊びを見つけて、毎日遊びに来てください。

なお、9月3〜5日は休館します。

〔こどもの城〕2期講座・クラブ 受講生募集中

〔こどもの城〕の講座・クラブは、子どもたちが持っている可能性を引きだし、たくましく、健やかに育ってほしいという願いを込めて運営されています。

現在、9月から始まる2期の受講生を募集しています（先着順）。すでに定員にたっしたコースもありますが、まだ余裕のあるコースもあります。申し込み状況を講座クラブ受付【☎03−3797−5666】へご確認のうえ、お早めにお申し込みください（休館日を除く、午前10時〜午後5時）。

こどもの城となかまたち

10月24〜26日にこどもの城児童厚生員等実技指導講習会

ボランティア活動の“困った!?”を解決するために

平成13年度第2回「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」が、10月24〜26日の2泊3日の日程で〔こどもの城〕で開かれます。この講習会は、児童館などに勤務する児童厚生員等を対象に行われているもので、現場で役立つ実技を中心とした内容で年3回開催しています。今回のテーマは「児童館のボランティア活動〜ボランティア活動の“困った!?”を解決するために〜」。

児童館は、地域の人々やボランティアなど、多くの人々に支えられて活動しています。「ボランティア」のとらえかたは、いろいろあると思いますが、スタッフ以外のさまざまな人の力——ボランティア活動として意識されているものもあれば、目に見えない“空気”のように当たり前に行われているものもあると思います——に支えられているのは共通しています。

今回の講習会では、ボランティアをふくめて、児童館を支えてくれるさまざまな人々の“パワー”を、広い意味での“ボランティア”と考え、児童館におけるボランティア活動を見直していきます。

講習会では「地域の拠点となる児童館とは何か〜ボランティアの存在〜」の講義のほか、参加者全員で考えるワークショップ「児童館のボランティア活動〜ここが“困った!?〜”」などのプログラムを予定しています。講師は、吉澤英子大正大学大学院教授ほか。

開催要項は下記のとおりです。

【開催日時】 10月24〜26日（2泊3日）
【会場】 こどもの城研修室
【対象】 児童厚生施設などに勤務する児童厚生員等の指導職員および企画担当職員など
【定員】 50人（定員になり次第締め切ります）
【参加費】 35,000円（宿泊・食費：23,000円、研修費：12,000円）
【申し込み方法】 9月19日午前11時から、電話で先着順に受け付けします。

お問い合わせ・お申し込みは、企画研修部【☎03−3797−5675】（担当＝熊沢、佐野）

1・2歳児親子向けの「よちよちクラブ」

細かくちぎった新聞紙——落ち葉のように、雪のように、丸めればボールにも変身——で元気に遊びました

細くちぎった新聞紙をたくさんかかえて投げ上げたり、新聞紙の山にもぐったり、つるされた新聞紙を引きちぎって遊んだり——子どもたちは大喜び。7月14日に行われた、親子（1・2歳児）向けプログラム「よちよちクラブ」では、新聞紙を使って親子で、兄弟で元気よく遊びを楽しみました（写真）。

「よちよちクラブ」は、毎月1回土曜日に行われている親子遊びのプログラム。担当する保育のスタッフがプログラムを考えて、手遊びやパネルシアターなど親子で楽しむ遊びを紹介しています。

開催日は土曜日で、11時と1時30分の2回（約1時間）。対象は、1・2歳児の親子15組。2週間前から、保育窓口（5階）または、電話で受け付けています（当日受け付けも若干名あり）。

9月以降の開催日は、9月22日、10月27日、11月17日、12月15日を予定しています。プログラム内容は各回ごとに異なります。お申し込み・お問い合わせは、保育研究開発部【☎03−3797−5669】へ。

秋の「親子三代健康づくり」第1弾は、9月15・16日に

“自然とふれあうキャンプ”

秋の「親子三代健康づくり」プログラム第1弾は、「自然ふれあいキャンプ〜収穫・食欲の秋を感じよう〜」です。9月15・16日の1泊2日の日程で行います。場所は佐倉草ぶえの丘キャンプ場（千葉県）。収穫したさつまいもを料理する野外炊事、太陽の下で楽しむフィールドゲーム、テント生活などもりだくさん。家族で自然を楽しみます。

対象は4歳以上の子どもと親（祖父母）、定員13家族。参加費は子ども7,000円、大人8,000円（現地までの交通費は参加者負担）。8月9日から、電話で先着順に受け付けしています。お申し込み・お問い合わせは、体育事業部【☎03−3797−5660】へ。

次回は、11月11日に「紅葉ハイキング」を予定しています。

9月11日から電話で受け付け

〔こどもの城〕女性ボランティア募集！

子どもたちとともに“あそぶ”活動が中心

〔こどもの城〕で活動する“女性ボランティア”（1面に関連記事）を募集しています。10月10、11、17、19、23日（予定）の5日間にわたって行われる、講義を中心とした講習を修了した後、登録してから女性ボランティアとしての活動をはじめます。現在、40代、50代を中心に、約60人が登録・活動しています。

【申し込み方法】 9月11日〜10月3日の午前10時〜午後6時（休館日を除く）に電話で受け付け
【応募資格】 講習会の受講が可能で、講習修了後、〔こどもの城〕で定期的にボランティア活動ができる人（特に、平日の昼間）。子どもたちとともに“あそぶ”活動に取り組む意欲があり、体力的にも無理のない人。おおむね30歳以上の女性
【定員】 20人
【費用】 無料

お問い合わせ・お申し込みは、企画研修部【☎03−3797−5675】（担当＝佐野・熊沢）

子育て支援センターなどから41人が参加し「子育て支援講習会」開く

“0.1.2歳児の子育ち”をどう支えるか話し合う

〔こどもの城〕子育て支援講習会「子育ちは0．1．2歳から〜現場でどうささえるか」が、6月30日に研修室で開かれました。児童館や保育所、子育て支援センターなどで働く人たち41人が参加しました。

午前中は、こどもの城小児保健クリニックの巷野悟郎医師の講義。子育て支援にあたって対象となる子どもの“成長と発達”をあらためて理解しておく必要があることから、一生の出発点である0．1．2歳の成長と発達について分かりやすく解説しました。

体が大きくなる“成長”、歩く・話すなどの機能が作られていく“発達”の2つを併せて“発育”と呼んでいます。それは常に揺れ動きながら、一定の順序で進んでいきます。個人差もあり、今日できなくても明日にはできるかもしれないというように、階段状に発育していきます。経過する時間も考えに入れておかなければなりません。また、昼と夜の生活リズムを身につけさせることもたいせつです。

午後の分科会は「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「発達や親子関係などへの対応」の3つのテーマのもと、4グループに別れて行われました。参加者の多くは、実際に子どもや親と接している現場スタッフ。それぞれが提起した具体的な事例をもとに討議が行われました。

「小児肥満のための指導者講習会」に全国から栄養士・養教らが参加

第30回「小児肥満のための指導者講習会」が、7月13日に〔こどもの城〕で開かれ、全国から栄養士、養護教諭など36人が参加しました。

この講習会は、開館当初から総合施設である〔こどもの城〕の特長を生かして、小児保健部門と体育部門が協力して行っている「健康スポーツ教室〜太りすぎクラス」の経験をふまえて行っているもの。運動と栄養、そして医学的側面から太りすぎの問題を考えています。午前は羽崎泰男こどもの城体育事業部長が「運動指導について」、午後は坂本元子和洋女子大学教授が「食事と栄養指導について」、村田光範東京女子医科大学名誉教授が「肥満の判定と指導」について講義しました。

運動指導では講義のほか体育室・健康開発室を使って実践指導も行われました。低学年の子どもにも扱いやすい、ちょっと重さがあって、あまりはずまないボールを使った運動——ひざの屈伸を使ってボールを床にバウンドさせて、跳ね上がったものをキャッチするなど——を紹介。「体を動かすことが嫌いな子どもはいないと思う。どのように楽しく体を動かすか、その方法論が大事」と羽崎部長。

坂本教授は、豊富な資料や栄養指導で使っている教材などを紹介しながら、子どもが理解しやすいような具体的・実際的な栄養指導法の重要性について話しました。村田名誉教授は、肥満の判定・成因・支援の要点を説明。肥満を是正することを目的にするのではなく、肥満による健康障害についての正しい認識を保護者や家族などが持つことが大切であるなど、小児肥満について医学的側面から講義しました。

▶ボールを使った運動を実際に体験

9月のBスタジオ（4階）の催し

■9月9日　こどもの城映画劇場『カナダのアニメーション〜人形アニメ特集』
11時30分、1時30分、2時30分、3時30分

カナダ国立映画制作庁（NFBC）の秀作短編アニメーションを2作品上映

『バルゴニーバードマン』（Brian Duchscherer 監督／8m52s／1991）
今から100年ほど前、“空飛ぶ機械（飛行機）”を作ろうとした人の物語。

『ナイトエンジェル』（Jacques Drouin、Bratislav Pojar 監督／18m41s／1986）
ある夜のこと、男がまどの外を見ると、そこには天使のような美しい女性がいました。

インフォメーション INFORMATION

青山劇場

●2001スターダンサーズ・バレエ団夏休み公演　バレエ「ドラゴン・クエスト」
▽8月11・12日▽S席＝8,000円、A席＝5,000円▽演出・振付＝鈴木稔

●「ピーターパン」
▽8月16〜28日▽一般7,500円、子ども割引（3〜12歳）4,800円▽演出＝鈴木裕美▽出演＝笹本玲奈、芳本美代子、比企理恵、池田有希子、尾藤イサオ　ほか

●INOUE-KABUKI　HORI-MIX「大江戸ロケット」
▽9月5〜24日▽S席＝9,000円、A席＝6,500円▽出演＝いしだ壱成、奥菜恵、古田新太、森奈みはる、石垣佑磨、峰岸徹、藤村俊二ほか

青山円形劇場

●渡辺真知子〜MY Room 2001〜
▽8月17〜19日▽6,000円

●青い鳥のポコペンランド 第16回こどもの城・キリン・ファミリー劇場「葉っぱのぱ は パワーのパ〜さっちゃんの大冒険〜」
▽8月24〜28日▽2,600円▽出演＝劇団青い鳥

●Margot, THE MUSICAL 〜A・ドゥマ作「E妃マルゴ」より
▽9月1・2日▽前売＝2,600円、当日＝2,600円

●青山演劇フェスティバル LAST SPECIAL since 1987「欲望という名の電車」
▽9月7〜24日▽5,500円▽作＝テネシー・ウイリアムズ▽演出・美術＝鈴木勝秀

■お問い合わせは、青山劇場予約センター【☎03-3797-1400】へ。